

7月5日(日) **オンライン理事会を開催** しました。

5月24日に第9回総会を開催予定でしたが、新型コロナウイルスに鑑み、中止とし、総会と一緒に開催してきた講演会(今回は第13回)は延期いたしました。

本来「活動計画・予算案及び理事の選任」は、会員が出席する総会にて審議・決定することになっております。今回上記事情から当会の規約を変更し、理事会で代替審議・決定ができるようにしました。

(但し、最近の総会での追加決議を要します。)

これらを、一括審議・決定する理事会は、7月5日(日)に開催、初のオンライン理事会」となりました。

令和2年度予算他、総会の議案は全て承認されました。

議案書(全文)は、当会HPに掲載いたしておりますので、そちらをご参照くださるようお願いいたします。

三輪敏彦 記

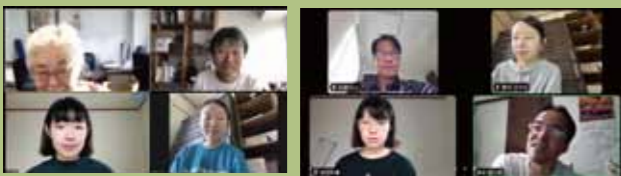
特報



後藤香代理理事
副会長に

私はヒトが好きです。だから、いちごえ会が好きです。私は家族や友人が大切です。だから、いちごえ会が大切です。よろしくお願ひします。後藤 香代

緑川ゼミより ZOOM インタビュー



8月18日 上段右 緑川左 増村 下段右 青木左 本田(敬称略)
9月2日 上段右 青木左 杉山 下段右 保手 本田(敬称略)

コロナ禍で変わったこと、困ったことなどについてインタビューを2回にわたって受けました。

参加者：緑川先生、青木さやかさん、本田知優さん、増村幸子会長、保手希一郎さん、杉山広樹さん

1. コロナ禍で困ったこと

- ・いちごえ会の全行事が延期か中止になった。
- ・仲間との交流が減り相談しにくくなった。
- ・パソコンやスマホが苦手な方と交流が無くなった。
- ・出勤日数が減り収入も減り出勤日の残業が増えた。
- ・消毒を徹底をするので業務が増えた。

2. コロナ禍への対処法と気づいたこと

- ・ネット環境が整備がされていない人は参加できないので、社会で救済してほしい。
- ・仕事は事細かな段取りで取り掛かるようになった。
- ・オンライン会議でうまく質問ができるような仕組み作りが必要。
- ・他のオンライン障害者会に参加、初対面の人とも話が出来たことはよかった。

都知事・都議会各会派に要望とヒアリング

2020年9月2日・16日

本年度施策に緊急要望、次年度予算に対し都庁担当者、各会派議員と熱心に意見交換を行いました。

- ・高次脳機能障害者への症状に配慮したコロナ対策および就労確保
 - ・失語症者向け意思疎通支援者養成事業の充実
 - ・高次脳機能障害者家族会への育成・支援
- 次年度予算・施策に反映してほしいです。
参加者：細見理事長、増村他役員。

桜東京パイロットクラブさま
小金井市社会福祉協議会さま

ご支援をありがとうございました

大切に使用させていただきます



ZOOM準備茶和会

2020年8月8日11時～

ZOOM茶和会開催の準備会を開催しました。

オンラインで仕事をしている松嶋有香さんの指導でZOOMに参加でき、すぐに打ち解け和気藹々、ZOOM茶話会開催に積極的に意見交換しました。

ネット環境整備、スマホやパソコン作業が苦手な方、スマホをお持ちでない方への対応など課題を役員会にて相談・解決することになりました。

今後、いちごえ会行事はオンラインで開催する機会が多くなります。

ホームページ、手引き書、動画などで参加方法をご案内いたします。(2ページZOOMにトライをご参照)

スマホをお持ちでない方へは密にならない方法で開催することを相談しました。

出席者：松嶋有香、井原あすか、望月初美、後藤香代、増村幸子

10月10日 13:30 ZOOM 茶和会開催

高次脳機能障害者小金井友の会 2020年9月25日 発行

いちごえ会

高次脳機能障害を地域の人々とともに生きる
生きがいのある参加の実現を

編集責任者：増村幸子
編集者：村田雅英
〒184-0004

小金井市本町 2-20-9-103
ホームページ：http://ichigoe.org/
メール：info@ichigoe.org

コロナ禍で世の中が大きく変動しました。リハビリテーションとはなにか、原点・現場から考えることにしました。

「リハビリテーション」とは

ヨーロッパの中世から使われてきた古い言葉で、語源は「人間が人間にふさわしくない状態に陥った時に、それを再びふさわしい状態に戻す」ということです。

中世には「王侯貴族の(一旦失った)身分・地位の回復」、「破門の取り消し」などの意味で使われました。近代にはそれに、「権利の回復(復権)」、「名誉回復」、「無実の罪の取り消し」などの意味が加わりました。現代にはさらに、「犯罪者の社会復帰(更生)」などの意味が加わりました。

なかでも「ジャンヌ・ダルクのリハビリテーション」が有名です。彼女は1431年に宗教裁判で「異端」であるとして、破門の上、火あぶりの刑に処せられましたが、1456年のやりなおし裁判で無実の罪(異端)と破門とが取り消されました。これがフランスの歴史で「リハビリテーション(復権)裁判」と呼ばれています。

医学・医療で使われるようになったのは1914年、アメリカ陸軍軍医総監部に「身体再建およびリハビリテーション部門」が作られたのが最初です。面白いことに「身体再建」とは「手段(訓練)」のことで、「リハビリテーション」は「目的(職業復帰・社会復帰)」を示していました。



いちごえ会顧問 上田 敏

私が「リハビリテーションとは全人的復権(人間らしく生きる権利の回復)」と言い出したのは、1969(昭和44)年の「目で見えるリハビリテーション医学」という本でした。

「全人的」とは、人が『生きる』ことには色々な側面があり、①手足や脳の働き(心身機能)、②歩く話すなどの動作(活動)、③働く、社会貢献など(参加)、さらに④悲しみや喜び(主観的体験)などがあるが、障害を負うと、①～④のすべての面に困難が生じる。だから、**すべての面で人間らしく生きる権利を回復することが必要なのだ**ということです。

しかもこの中で一番大事なのは③の「参加」(働くこと、等)の実現です。

リハビリテーションとは 人間らしく生きる権利の回復



医学博士上田敏氏
いちごえ会顧問

相談会

今回は印刷関係のお仕事の方が続き、在宅でデザインし、ネットで納品も可能でした。

カスタマイズ就業の可能性を示唆する相談会でした。

Fさん相談会 2020年1月20日

Fさん

お姉さんが小金井市在住、Fさんはお母さんと一緒に埼玉在住です。お姉さんが車で埼玉までお迎えに行きお姉さんと一緒に相談されました。

Fさんは脳出血を発症。発症前はMacを使い、印刷会社でチラシなどデザインの仕事をされておりました。退院後は自宅で自立を目指してデザインを試作し自習中です。



和やかに相談中です

Yさん相談会 2020年2月20日

Yさん

4年前くも膜下出血を発症。発達障碍児向けのソーシャルスキル教材の開発、販売のお仕事をされておりました。

物忘れがあり、自分の状態がわからない。今後就労するための相談でした。

上田敏先生は時間をかけて、丁寧に問診され、起業して自立を勧められ、今後継続相談を約束されました。

後日、Yさんから「相談後、気が楽になった」とメールが来ました。



第17回 茶和会 2020年2月10日

司会：望月初美会長

障害者自立生活支援センターからFさんが初参加されすぐに打ち解け、自由活発な質問に井原さんが専門家として応えて下さり楽しく有意義な意見交換会でした。午前、交流会運営委員会があり運営委員が参加し多彩な顔ぶれでした。



井原さんを中心に勉強中



講師：井原あすかさん 糖質の消費量 20% 糖の需要が大きい

これって高次脳機能障害の症状？
いいえ、血糖値の乱高下です

脳は大飯食らい

症状 注意力低下・認知力低下・疲労感・眠気・怒りっぽい・独善的・不安感になりやすい

血糖値を安定させるには

- ・食事を抜かない
- ・食事と食事の間が空くと血糖値が急上昇
- ・毎食食物繊維を摂る
- ・食べる順番でコントロール
- ・野菜・肉から食べる
- ・炭水化物・甘いものは後から食べる

井原あすかさんから血糖値について勉強しました

ZOOM 茶和会にトライ

開催日：10月10日（土）13：30～
全員初心者と一緒に勉強しませんか。

会報に同封の手引き書又は下記をご覧ください。

『スマホで ZOOM 茶話会に参加する方法』

<https://youtu.be/NqBTdEA3rFY>

『PCで ZOOM 茶話会に参加する方法』

<https://youtu.be/abLluNtnxgQ>

同じ内容の文章版はこちらです。

『PCで招待 URL をクリックして Zoom 茶話会

に参加する方法』

https://zoomy.info/zoom_perfect_manual/joining/join_with_pc_by_click_url/

『スマートフォンから Zoom 茶話会に参加する方法』

https://zoomy.info/zoom_perfect_manual/joining/with_smartphone/

上記 YouTube 動画をご参照下さい。

お申込み info@ichigoe.org 締切 10月7日。

ホームページをご参照ください。



安曇真二さん

はじめまして。20代の頃、絵を描いたり、小説を何回も書いたりしてました。(ショート・ショートコンテストでは、入選1回、予選通過3回)。会社にも行きました。ところが、脳内出血で倒れました。家の電話が通じなかったので、携帯を、と思ったら2階にありました。とてもじゃないけど、右手、右足が重くて、ダメでした。一昼夜、目覚めて、這いつくばって階段を登って、携帯をとって、電話しました。今は、ST(言語療法士)、PT(理学療法士)。友達、それと「いちごえ会」のおかげで、言葉、歩行が少しずつ慣れてきました。重盛さんに「まんがを描いてみたら」と、勧められ、絵、小説、エッセイを書いています。

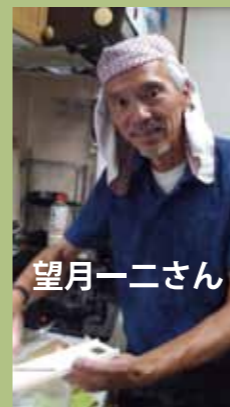
人は駅伝を繋いでいる。誰かが「たすき」を渡し、誰かが受ける。また、誰かに渡す。2ヶ月ぐらい前に、K駅へ向かった。雨がパラパラと、そしてザーザーと降ってきた。駅で段差があるが、今日は寒くなり、足が動かない。と、高校生が傘を差し出してくれた。私は「ありがとう」と、高校生の肩に手を置いた。本当に助かった。先週、K駅で降りた。小さな女の子が自動計算機の前で、不安そうでウロウロしていた。「どうしたの?」 「...お金が...」 私はお金を取り出し、自動計算機のボタンを押した。小銭が出てきた。女の子は2回会釈をして、歩いて行った。もしかししたら、女の子は「たすきを渡す」かもしれない。

K駅にて
安曇真二
(あずみしんじ)
(ペンネーム)

できるを掘り起こそう

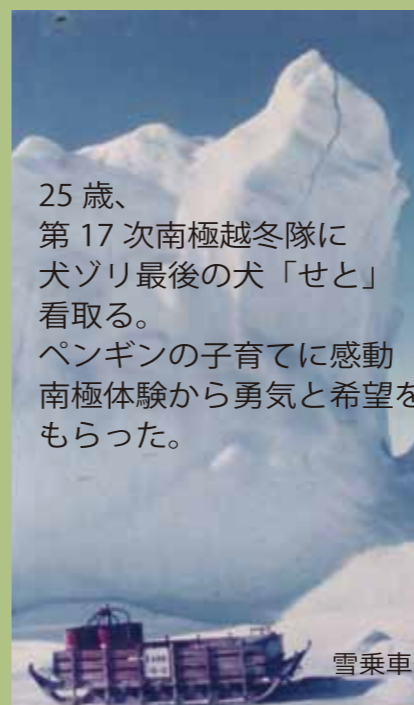
高次脳機能障害はゆっくりと改善され出来るが増えてきます。

高次脳機能障害者は発症前まで、能力を発揮し社会貢献していました。ある日突然、病気や事故で高次脳機能障害を負いましたが、発症前のスキル・経験などは生き残って居り、症状は進行しません。その埋もれている蓄積(出来た)を掘り起こし、その人に「カスタマイズした働き方・生き方」は、人間らしく生きる権利の回復に繋がります。



望月一さん

2013年当時62歳、脳出血で倒れ、左半身まひ、左半側空間無視、歩行も困難であった。自宅近くの病院に転院し、6か月間リハビリに取り組んだ。退院後、デイステーション涼風では調理、小さな菜園で野菜づくりなど、リハビリを楽しく今も続けています。



25歳、第17次南極越冬隊に犬ゾリ最後の犬「せと」看取る。ペンギンの子育てに感動。南極体験から勇気と希望をもらった。



外は氷、中は夏、毎回20人分の食事作りでした。気象隊員のアドバイスで小松菜ときゅうりの栽培に成功、南極産直生野菜サラダに全員歓声を上げ、大喜びでした。

中央線一人旅 Kさんとの再会

今年正月、昔お世話になったKさんにお礼を言う決心をした。武蔵小金井駅で駅員さんに障害者手帳とメモを見せ日暮里迄行きたいと伝えると、駅員さんは丁寧に教えてくれた。

日暮里駅の交番でも、障害者手帳を見せ、Kさんの住所を書いたメモを見せるとお巡りさんはKさんに電話で事情を伝えてくれた。

Kさんは驚いてすぐに交番に迎えに来てくれ、Kさんと一緒にタクシーでお宅へ伺った。

Kさんに長年気になっていた感謝の気持ちを伝え、自分の障害のことなど色々話した。あっという間の3時間だった。

脳出血を発症してからは、どこに行くにも妻と一緒にあった。今回の旅は、私にとって大冒険であり、自信につながった。意思があれば出来ると思った。

私は「おいしい」と喜んで下さる方のために
今後も調理を続けます。これが生きがいです。